

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 3 月 31 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670200551号
法人名	有限会社 ゆずの智
事業所名	グループホーム お多麻さんの家
所在地	薩摩川内市寄田町 8 8 5 番地 1 (電 話) 0 9 9 6 - 3 1 - 3 7 2 2
自己評価作成日	平成25年2月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康は食から、と理念にもありますように、利用者が毎日食事をおいしく召し上がり、元気に過ごされることにより、職員も楽しく介助することで、利用者が安心して暮らすことができ、又良い人間関係を築くことでほのぼのとした暖かさを感じ、心の健康も保つことができると考え実施しています。家族から利用者の自由を尊重して、安心して暮らしが出来る所であると信頼され、又地域の方々と交流ができる施設を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

薩摩川内市西部の自然環境に恵まれた地に建てられているグループホームである。昨年、2棟目が開設されて、大所帯となったが、家庭的な雰囲気は変わることなく、玄関を開けるとテーブルを囲んで、寄り合い処のように和気あいあいとおしゃべりをしている光景が目に入る。木のぬくもりが随所に感じられるホーム内は安全と動線に配慮した造りとなっており、リビングと居室からは自由に中庭に出入りが出来るため、開放的で、居室から長靴に履きかえてくわを片手に菜園の畑仕事に出る利用者もいる。健康管理においては協力医療機関とホームケアの契約を結び、24時間体制で医師・看護師との連携が図られ、家族の安心に繋がっている。また、本人・家族の思いや希望による看取り介護にも取り組む方針で、医師・看護師・職員がチームとなって可能な限り思いに添えるように体制を整えている。「健康は食から」と栄養士である設立者の指導のもと、食材をふんだんに使った食事は家庭的で栄養バランスも良く、時には菜園で採れた野菜も食材に加えて季節を感じながら「食」が楽しめるように支援している。自己主張がはっきりとしているために利用者同志時には衝突もあるが、それも社会生活の一部と捉え、職員は必要以上に介入せずにさりげなく様子を見守っている。また、気の合う同志居室を行き来するなどの友達関係もできている。それぞれの生活スタイルに合わせた安全で自由な「普通」の生活が送れている様子が利用者の笑顔からも伺われ、離れて暮らす家族の安心に繋がっている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	日頃から連携を密にし情報交換をしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、玄関、ホール、事務室に掲示している。また、理念とは別に毎月、目標も掲げてサービスの質の向上とケアの統一を図っている。理念は職員会議時に振り返る機会もあり、共有と実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り・文化祭等の行事に参加、又事業所での花見に地域の方々への参加をいただいている。	自治会に加入し、回覧板での情報収集のほか管理者は総会に出席して地域の相談窓口として啓蒙に努めている。また、利用者も事業所の催し物の際や地域行事参加で地域住民との交流の機会がある。地元出身の利用者もあり、友人知人の訪問も多い。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	自治会会員になっており、総会等に参加して機会があれば認知症の理解・支援の方法を話している（個人的にも声をかけることがある）		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの運営状況・利用者の日々の様子等を報告又は意見交換をしサービス向上に努めている。	自治会長・地区福祉高齢部会長・民生委員・消防団員・家族代表・行政などの参加で2ヵ月に1回定期的に行っている。ホームの状況報告・活動報告などを行って、安全対策や地域の高齢者事情などを話し合う機会となっている。運営推進会議を通じて地域との関係が密になってきており、有意義な会議となっている。	

鹿児島県 グループホームお多麻さんの家 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者と連携を密にして情報収集をしサービス向上に努めている	日頃より市担当者と連携を図り、協力関係を築いて事業所運営やサービス向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、それを基に話し合い日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日常の業務の中で疑問点があれば職員間で都度検討して拘束のないケアの実践に取り組んでいる。また、定期的に勉強会や事例検討会も行っている。日中は玄関や居室の窓などは施錠はせずに自由に出入りできる環境を作り、職員の見守りと連携で安全で自由な生活を支援している。時には「家に帰る」と言って外出する利用者に「行ってらっしゃい」と見送り、職員がさりげなく着いて行き見守ることもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料収集を行い、定例、随時会議で理解を深めて防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係資料等の収集・定例、随時の会議で理解を深め支援できるよう努めている。		

鹿児島県 グループホームお多麻さんの家 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所される際の契約で、家族の不安や理解が得られるよう十分な説明に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置して、日頃より何でも言ってもらえる雰囲気づくり、出された意見や要望等は職員で話し合い、運営に反映している。	玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書にも窓口を明記している。日常の面会時や家族会時に意見・要望などを聞き出すように努めている。また、支払いを窓口持参にしているので遠方の家族以外は毎月来訪があり、職員は利用者の状況報告も行い、家族とのコミュニケーションを図っている。出された意見・要望については職員全員で話し合ってサービス向上に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	かねてから意見や提案を聞き、その都度話し合う、又月1回の定例会議でも話し合い反映させている。	2ユニット合同で朝礼を行い、利用者の状況を共有できるようにしている。また、毎月の「お多麻会議」は基本全員参加で行っており、職員の意見・提案を話し合う機会となっている。出された意見・提案は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭の事情や技術向上の研修を十分に考慮し、勤務体制を作り楽しく働けるように努めている。		

鹿児島県 グループホームお多麻さんの家 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	公的機関が実施する技能資格研修に積極的に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域グループホーム連絡協議会の会員となり、ネットワークづくり、勉強会等を通じてサービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と密に連携を取り、要望や本人にとって安心できることは何かを十分に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを十分に聞きながら不安なく安心されるように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族に十分に話を聞き、今必要とする支援を話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来ること、役割を見極めて、信頼関係を築きながら利用者中心に生活することを心がけている。		

鹿児島県 グループホームお多麻さんの家 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活状態を報告しながら、家族の思いや要望、意見に耳を傾け本人の思いを共有できるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り馴染みの方との交流が出来るように、家族と協力して支援に努めている。	地元出身の利用者もあり、地域の敬老会や地域行事見学に出かけてなじみの人や場との関係が途切れないように支援している。また、友人知人の訪問も多く、訪ねやすいように配慮している。希望に応じて電話や手紙の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、お茶、誕生会等に時孤立しないよう職員は心がけ、利用者同士の関係を見極めて、手仕事等一緒にすることで会話が出来るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に病院への入院で終了になるので、病状経過をご家族に伺い又心配事等に耳を傾けて相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を話される方からは、話に耳を傾け困難な方は、気持ちの良い状態を保たれるよう援助している。	口頭で思いや意向を表してくれる利用者が多く、職員はしっかりと聞くように努めている。困難な場合は表情や言動、家族や関係者からの情報で本人本位に検討している。得られた情報は朝礼時や個人記録で共有して可能な限り、本人の希望に添えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族よりこれまでの暮らし方、生活環境の聞き取りや以前のサービス利用や入所経緯の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の把握や一日の過ごし方を職員間で情報を共有して、その都度話し合い検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からは普段、家族からの意向は面会時に聞き、主治医からは健康ケアの指導を受けモニタリングをして、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族の意向や希望を聞き取り、主治医や関係者の意見を反映させた個別の介護計画を作成している。3か月ごとにモニタリングを実施し、心身の状況変化に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホームお多麻さんの家 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報、介護評価、介護経過記録を記入し、申送り帳、朝会録で情報を共有しながら、実践や介護記録の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況により、布団、衣類の購入等柔軟に支援、又は専門病院への受診も支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での夏祭り、文化祭、敬老会等の行事に参加したり、施設の行事に招き交流の場としている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医院とは随時連絡が取れる体制になっており、月2回の定期受診を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人、家族の希望によるかかりつけ医と連携を図り、適切な医療が受けられるように支援している。協力医療機関とは緊急時においても24時間体制で適切に対応してもらっている。	

鹿児島県 グループホームお多麻さんの家 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急対応の必要があるときは、かかりつけの医師と連絡を取り指示を受け又日頃より看護師と連携、相談して適切な受診、看護を受けるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	平素の施設での医、薬、生活状態の情報を医院に提示し、訪問診療医師から情報を提供している、退院時は情報を貰いケア計画に活かしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医から重度化している状況を家族に説明し、管理者から随時現状変化を家族に報告している。	重度化及び看取り介護に関するホームの方針は指針に基づいて入居時に説明し、同意書も作成している。入居後は身体状況に応じて主医師の判断のもと、家族と方向性を話し合い「終末期及び急変時における確認書」を作成してホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。また、看取りを必要とする利用者の支援に主治医・看護師・家族・職員がチームで取り組む体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変の対応（身体、事故、火災）はホール等見やすい所に要領を備えて、応急手当、初期対応できるように年2回以上避難訓練を実施している。		

鹿児島県 グループホームお多麻さんの家 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回夜間想定で避難訓練を実施、避難経路の確保、火災報知機、スプリンクラー設置、地域との連携と職員の実践力を身に付けさせている。	年3回夜間想定避難訓練を実施している。近隣の事業所職員や地域住民との協力体制も築かれ、緊急連絡網にも登録されている。スプリンクラー、自動通報システムも設置済みで備蓄も確保されている。地震時は近くのコミュニティセンターを避難場所としている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声の大きさに気をつけ丁寧な言葉使いをして、誇りやプライバシーを損ねないように心がけ対応している。	日常のケアの中で、利用者の尊厳とプライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	思いや希望をはっきりと表現できるように言葉かけして、話を傾聴する、自己決定が出来るよう言葉かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康状態を考慮して、その方の生活リズムを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	清潔な身だしなみに気をつけて、それぞれのこだわりのおしゃれが出来るように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事の楽しみ、好きな物を職員で共有し食事づくりに活かして、野菜の下ごしらえ、茶碗洗いを利用者と一緒に行っている。	利用者それぞれの力量に合わせて調理や食器洗いなど手伝ってもらっている。食材をふんだんに使った食事は栄養バランスも良く、中庭の家庭菜園で採れた野菜も食材に加えて季節を感じながら「食」を楽しめるように支援している。時には気分を変えて、中庭でお茶や食事をしたり、少人数で外食に出かけることもある。	

鹿児島県 グループホームお多麻さんの家 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが偏らない家族的な料理を提供し、食事量、形態は個別に対応、水分量は記録して不足しないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけをして、自力で出来る方は自分でできない方は介助して行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを職員で共有してタイミングをつかんでトイレに誘導している。	排せつチェック表・記録表の活用で個々の排せつパターンの把握に努め、身体状況に問題がない限り、トイレでの排せつや排せつの自立に向けた支援を行っている。職員の声かけや誘導により入居後に改善された利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を可能な限り記録して、便秘を起こしたときは早急に把握できるようにしている。		

鹿児島県 グループホームお多麻さんの家 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴を計画して希望の時間に入浴し、便汚染等の時はその都度シャワー浴をしている。	基本は隔日で午前中としているが、利用者の希望や身体状況に応じて臨機応変に支援している。自立している利用者もあり、職員の見守りと声かけで安全で安心して入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望によって休息させ、夜間も静かな環境で眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的、副作用等の理解に努め、変化があるときは主治医に連絡して指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を勘案して役割や楽しみを持っていただくよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時の外出希望には応えられないが、買い物時にの同行、食事や花見等外出している。	ホーム周辺の散歩、買い物同行、地域行事見学、時には少人数での外食やドライブなどにも出かけている。また、中庭でのお茶や食事、日課として菜園の畑仕事など、立地の環境を活かしてホームに閉じこもらない生活を支援している。	

鹿児島県 グループホームお多麻さんの家 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、させていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は自由に出来るよう介助し、耳の不自由な方は家族から手紙を出すよう相談し実行されている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感の花飾り等配慮し静かな環境を保つようにしている。	玄関を入ると木のぬくもりが随所に感じられる明るく広い共用空間が広がっている。中庭に面したリビングにはソファとテレビがあり、菜園を眺めながらゆっくりとした時間を過ごせる空間となっている。また、ユニット間は広々とした交流スペースで繋がっており、ソファが置かれて一人の時間を過ごしたい利用者のくつろぎの場所にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用ホールには、テレビ、本、新聞を置き、自由に心安らかに過ごせる工夫をしている。		

鹿児島県 グループホームお多麻さんの家 1ユニット

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのものや使い慣れたものをベッドサイト等において心地よく過ごせるように工夫している。	なじみの家具や趣味の本、お気に入りの飾り物、家族の写真などそれぞれに居心地良く過ごせるように配慮されている。直接、中庭にも出入りでき、開放的な造りである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来ること、わからないこと」に合わせて場所が分かるように「名前」や「トイレ」に表示している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームお多麻さんの家 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームお多麻さんの家 1ユニット

66	職員は，生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない